

ラグビーワールドカップの熱が冷めやらぬまま、秋の学会シーズンとなりました。日頃まとまって勉強する機会のない忙しい臨床医にとって、学会参加は最新の知識や情報を効率的に得られることに加え、いろいろなよい刺激が受けられ大変有意義です。個人的には、日本脊髄障害医学会での慶應義塾大学教授中村雅也先生（本誌編集委員）の特別講演「我々が目指す脊髄再生医療とは」が特に印象的でした。先生の生涯のテーマである「脊髄再生」の基礎研究から臨床治験に至る長い「歴史」と今後の展望について熱く語られ、いつものように大変引き込まれました。脊損患者さんの機能回復には、まだまだ多くの課題が残されていますが、着実に前進していることがわかり、期待と安心が得られました。講演の最後に述べられた「再生とは発生の繰り返し」というフレーズが、これまでの研究人生から得られた生命現象の原理として、心に響きました。

さて、今月号の特集は新たに承認を受けて1年になる腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的融解術についてです。基礎研究から臨床治験まで一貫して関わってきた松山幸弘先生の企画で、これまでの研究の歴史から治療成績と適正使用のための指針まで、現時点での情報が集積されており、本治療の適切な普及に大変有用な内容となっています。また、これまで医学雑誌で取り上げられてこなかった手技料（保険点数）についての話題、特にその決定過程についての遠藤健司先生の論文は大変新鮮でした。新たな医療技術を国民に適切に普及させるために、大変重要なテーマであるとあらためて考えさせられました。

私事になりますが、30年以上前私が医学生の時、当時の名古屋大学整形外科教授の岩田久先生が軟骨基質の生化学的研究に一貫して精力的に取り組んでいたのを思い出します。当時はその研究の意義がまったくわかりませんでした。その基礎研究の成果が長い年月を経て臨床応用に至ったことに、神経内科医である私も深い感慨を覚えます。研究の始まりは50年前、岩田久先生が大学院生時代に行った細菌からの酵素の抽出と精製からで、世代を超えて研究が引き継がれ発展し現在に至ったことになります。短期間で成果を求められる現在の研究環境の中、何世代にもわたって引き継がれていく学問の伝統や系譜（学統）の重要性を感じます。現在当たり前に行われている医療技術も、それぞれ先人たちの血と汗の上に成立していることに、歴史を振り返り思いを馳せることが時には必要ではないでしょうか。

（亀山 隆）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 谷 論
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 32 No. 12
(2019年12月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ごめ予約購読料30,700円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2019,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。